



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小
～ 明日が楽しみな学校をめざして ～」

隈府小学校
学校だより No.12
文責 芹川博文
7月3日(金)

上靴・スリッパ と ワールドカップ ～ 次の人の気持ちを考えて 日常をバージョンアップ ～



生活委員会による児童集会



きれいに並んだスリッパ



集会での感想（返し）発表

私が中3の担任をしていた時、ある私立高校の入試引率で、その高校の職員玄関の前に立っていた時の光景を今も覚えています。一人の在校生（高校生）が急いで外から玄関に入ってきました。素早く自分の靴を脱ぎ、かかとを揃えて並べた後、横にあった他の人の靴も同じようにサッと向きを変えて揃え直し、中に入っていました。その行動の素早さ・自然さから、清々しい感動を覚えました。

今週の児童集会担当は生活委員会でした。目標は「ルールを守って生活する」。重点ポイントは、「上履きとトイレのスリッパ」。どちらにも共通することは「履き物」であること。つい気が回らず、雑な扱いを受けやすいものです。しかし、同時に、日頃の生活が鏡のように映し出されます。

生活委員さんのクイズを交えた呼びかけの後、沢山の児童が手を挙げて感想を発表しました。「次の人の気持ちも考えて、きれいに並べようと思いました（6年生）」「時々、並べない時があるので今度からきちんと並べます（3年生）」など。集会が終わって数時間後、全学年のトイレのスリッパを見てみると、どの学年も並んでいました。隈府小の日常が更にバージョンアップすることを期待します。

サッカーワールドカップのニュースで、日本選手が使用した後のロッカールームの美しさが、今回も話題になりました。スポーツに限らず、何かを極めようとするとき、「日常のバージョンアップ」が不可欠と言われます。地道なプロセスがその人の土台となり、しっかり根を張る人格形成へとつながります。

そう言えば、中3の生徒たちに上靴について話していたことを思い出しました。「入試当日だけちゃんと履いても、かかとを踏みつけた跡は分かります。新品だと不自然です。日常を大切にしましょう」。

手をかけて 応えて育つ 花・野菜 ～ いったん軌道に乗ればグンと育つ姿から ～



こぼれ種から育った花



差し芽から育ったミニトマト



朝から収穫する子どもたち

こちらが無言のメッセージを感じます。隈府小学校で育つ花や野菜。毎日、手をかけてお世話をしてくれる子どもや先生たちの思いに応えるかのように、元気に花を咲かせたり、実をつけたりしています。写真左は、こぼれ種からびっしりと育った花（メランポジウム）で、たくましさを感じます。中央の写真は、小さい苗の時莖が折れたものの、差し芽でつがり大きく育ったミニトマト。写真右は、朝から子どもたちが収穫していた大きなキュウリやナス。育てた人の愛情が注がれ、その植物ならではの物語を感じました。

植えたばかりの苗や出たばかりの芽の時は小さく弱くとも、いったん根を張り軌道に乗れば、グンと育ち花や実をつけます。その姿と可能性は子どもたちの成長とも重なります。自立に向け、ええ塩梅（ほどよい加減）の支援と見守り、そして暑さや雨風の中で育まれる耐性としなやかさを大事にしたいものです。